



校長室にて（令和六年八月撮影）

みやかめタイムス

校長先生 Vol.8

インタビュー号

宮部校長先生はこんな人

M…まだ着任されて五ヶ月ほど^{※1}。宮部先生の人となりはまだわたしたち分からないので、自己紹介をお願いします。
校…大阪の堺市が出身地です。

M…大阪のご出身？方言、全然ないですね。

校…もう東京に来て二十五年経つので。大学卒業して、就職で東京に来ました。当時は大阪府はほとんど教員の採用がない状態だったんです、三十倍とか、四十倍とか。当時東京は十倍くらいだったんです。

M…今とは全然違う状況ですね。先生は小学校教員のみを考えていたんですか？

校…元々大学の学部が障害児教育でした。今は特別支援教育といいますよね。私の専門は学習障害で、学習障害のお子さんは、通常学級にいますよね。それで小学校の先生を目指すことになりました。

M…^{※2}「道標^{ミチシルベ}」で拝見したコメントでは、心理学とも書いてありましたね。

校…元々大学で心理学の教室にいたんです。有名な先生がいて、その方の下で学びたいと思って大学を受験したのがきっかけです。

M…なるほど。先生が小さい頃の夢って、ありましたか？

校…小さい頃は虫とか生き物が大好きでした。その中で、生き物と触れ合いたいという思いがずっとありました。人間も大きく捉えると生き物の一種類ですよ。人間を理解したいと思って、いろいろな本を読んだのが高校時代。それで前述の心理学の先生の本に出会った…ということなんです。

M…素晴らしいですね、高校時代に今後のキャリアについて色々考えていらっしゃって。

校…教員になってからは専門領域をちょっと外れるんですけど…実は教員になってからはずっと、理科を選択して研究しています。だから心理学というよりは、理科の方が専門になってきていますね。

※1 記事の内容はインタビューを実施した令和六年八月当時のもの。

※2 青少年対発刊の広報誌。記事内容は令和六年七月発行の記事に言及したもの。

宮部先生のキャリア

M.. 二十五年ほど前に東京都の教員になってからは、どんなご経験をされていらっしゃったんですか？

校.. 元々教採に受かる前は、大阪府で講師をしていました。そのときは養護学校の担任をしていました。東京都の教採に受かったあとは、特別支援などの学校は携わる機会はありませんでした。国立市が割と長く、国立市↓町田市↓青梅市と周り、今の八王子市になります。M.. なるほど。この二十五年の間で子どもを取り巻く環境とか、子どもたち自身に変化は感じますか？

校.. 子どもたち自身には大きな変わりはないですね。ただ子どもたちへの見方..とでも言うのでしょうか。見方はこの二十五年で大きく変わったように思いますね。二十五年前は小学校でも厳しい指導があったり、子どもたちへも「しっかり頑張れ」なんて言っていたと感じます。今は子どもの気持ちを考えた指導に変わってきている、それが社会の流れかなと思います。

M.. 近年教員の働き方改革が大きく叫ばれている中で、そういった子どもの見方の変化..というのは、教員の皆さんにとって大きな負担になったりしているものですか？

校.. そうですね。先生方に対する見方も細かくなってるって言うのかな。それは保護者の皆さんからも、社会からものです。価値観の多様化で、子どもたち一人一人への個性のある指導を求められているところはありますよね。

M.. なるほど。今回校長になって初めての赴任となりましたが、現場、副校長と校長で違いって大きいですか？

校.. 現場とは全然違いますね。副校長になった時点で、現場とは転職したくらい違いがありました。

M.. 転職ですか(笑)

校.. もう仕事内容が全然違いますよ。現場は子どもたちと直接関わる仕事が大半ですが、副校長になると事務作業が中心になっていきます。校長になると学校の方針を決めるのが主な仕事で、事務作業は副校長よりも減るんです。その分学校全体の責任があるので、プレッシャーはありますよね。

M.. まだ五ヶ月ほどですが、校長になって嬉しかったことってありますか？

校.. 一つ思うことは、副校長って裏方の仕事が多いのですが、校長は子どもたちの前で話す機会も多いので、子どもたちが「あ、校長先生！」みたいに話しかけてくれるのが嬉しいですね(笑)あと子どもたちのことはとても大切ですが、管理職でもあるので先生たちをどう大切にするか..というのが、私の今の大きなテーマです。先生方には苦言を呈することももちろんあるのですが、本心では先生方が嬉しい顔をして、健康的に生き生きと子どもたちの前に立ってくれることが最高だなと思っています。先生たちの元気は必ず子どもたちにも返っていくので、先生たちのことも大切にしたいですね。

宮部先生も保護者のひとり



M…先生はずっと八王子にお住まいなんですか？

校…はい、そうなんです。国立市で教員がスタートして、その後町田市、青梅市で今の八王子市。ずっと八王子市で教員をやりたいと思っていたのが叶った形です。

M…先生のお子さんも八王子市の小学校だったんですか？

校…だった…というか、まだ小学生なんです。小学六年生。

M…あら！保護者として八王子市の小学校にも関わっていらっしゃるんですね！お子さんの通う小学校はどうですか？

校…あまり…何も言いませんよ。先生たちもやりにくくなると悪いな〜と思うんで（笑）

M…確かに（笑）八王子市の小学校と一言で言っても、結構地域差があるものですか？

校…八王子市は広い！結構地域によってバラバラですよ。八王子市は校長や管理職の方に裁量がかなり委ねられているところがあります。八王子市っていろいろな縛りがあるんですよ。でも最終的には学校判断で…ということもあって、だからこそそれぞれの学校のカラーも出てくるかな。例えば八王子駅の辺りの小学校は古くからの街だから、お祭りがあったり地域との関わりも大きいです。宮上小学校みたいなニュータウンは、これから歴史を作っていくという過程だから、地域の違いはありますよね。

みやかみ会の活動について

M：元々多摩ニュータウンの小学校は、できたときにPTAはつくらないで、地域の人がお手伝いするという文化でスタートしたみたいなんです。その点について、どう思われますか？

校：今は共働きが当たり前になりましたよね。以前のように専業主婦の方たくさんいらしかった時代だと密に学校の活動ができたことも、今はそういう時代じゃない。となると今までのままではなく、今の時代に合ったものに変えていく必要があると思います。

M：そうですね。学校にとっても活動の管理を求められて大変だと思いますし。

校：そうですね。以前のまま…では、保護者の皆さんにとっても、学校にとっても無理が出て来てしまいますよね。だからこそなくすのも1つの手だし、ボランティアへ移行するのも1つの手ですよね。色々方法があると思っています。

M：ちなみに青梅市の小学校は、その辺りのPTAの活動はどうでしたか？

校：青梅市はね、地域のおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいたので地元の方が色々小学校や子どもたちのことをやりたいんです。子どもたちにとってもおじいちゃん、おばあちゃんが関わってくれることは良いことですよね。とは言え、青梅市も共働き世帯が増えているので、PTAの活動は縮小…という風潮もあります。ただそこは地域も強くて、縮小

しきれない部分もあるのが現状でしたね。でも地域の方と良い関係性だと、放課後とか子どもたちのことを見てくれるんですよね。学校の登下校なんかも見てくれますし、何かあればいろいろと助けてくださるし。いろんな形で地域の方の手を借りられるのは良いことですよね。今後の方向性としては、地域の方にどんどん学校に入ってきていただくという方向性になってきています。中学校の部活動も然りです。



M：どうやって旗振りをされていくイメージですか？

校：宮上小学校には学校運営協議会（以下：学運協）があるので、学運協でも話し合われています。地域の方にどんどん来ていただき、意見を言っていただき、活動に参加していただく。学校やPTAという話ではなく、地域で学校を運営していくということですね。

M：世話人をやってみて初めて感じるのですが、現状

かなり縦割りでいろいろな組織がありますよね。それぞれのやりたいこと、やることがあったり、お互いにそれを知らない、知ろうとしていない。保護者の皆さんも、学校を取り巻く組織がそれぞれ何をしようとしているか知らない…という状態を感じます。どう感じられますか？

校：確かに、その辺りの情報というのでしょうかね。お互いがどう考えて、何をしているのかももっと知るのには大切だと思います。情報公開については、もっと風通し良くやっていく必要があると感じます。学運協をもっと盛り上げて、中心になって地域を巻き込んでいくというのがこれからのポイントになると思います。

M：学運協でも色々考えてくださっているんですね。でも残念なことに学運協がどんな組織で、どんな話し合いをしているか…って、正直保護者の私たちには全然伝わってきていないと感じています。それってすごくもったいないことですよね。今後の展望とかもどんどん発信してもらえたら嬉しいです。

校：そうですね。私自身も色々情報発信の方向性を考えているところです。学校のホームページを使ってもっと発信できたたら良いな…とか。例えば地域の方が手伝ってくださったら、そういった情報って是非皆さんに知っていただきたいじゃないですか。掲載の仕方なども含めて、ホームページの上手い運用方法を検討しているところです。

先生をもっと好きになるために

M：今って先生と関わる時間もとても少なくて。先生の仕事に支障があるかなって考えてしまいます。関わるのが最低限となると、なかなか先生を好きになれるほど先生を知る時間もなくて…でもきちんと時間を取って話してみると、先生それぞれにも個性や人間味があって、とても面白くて好きになります。保護者の皆さんに伝わればと思って、こうして先生にインタビューをさせていただいたんです。

校：本当にありがたいです。そうなんです、先生方は本当に良い先生ばかりなんです。今年度はそれぞれの教室を回って、先生の授業風景なんかをホームページに載せたりなんかして。少しでも知っていただきたいなと思って発信していました。

M：是非私たちも何かお手伝いできることがあれば嬉しいです。先生たちの負担になったらどうしようって悩んでいたんですが…他の先生にも取材しても良いですか？（笑）

校：是非ぜひ！お願いします（笑）私も何かやりたいけどと思っていたので、すごくすごく嬉しいです。

M：こちらこそ、ありがとうございます。是非皆さんにも、子どもたちにも改めて先生たちを知ってもらう機会を作ればと思います。

校：もっと先生、保護者の皆さんが気軽に話し合える環境というのかな。そういった関係性が理想ではありますよね。保護者の皆さんも学校から電話が来たと思うと、ビックとする…学校側でも、保護者の皆さんか

ら〇〇先生に電話ですと言われると、ビックとする…とか。コミュニケーションをしっかりとって、お互いに良い関係性が築けると、こうした場面は少なくなるのかなと感じます。

M：お互いにストレスが貯まる関係性はよろしくありませんよね（笑）先生への感謝の言葉がもっとたくさん子どもたちや保護者の皆さんから直接届けば、先生たちもそれがモチベーションになりますよね。

校：先生たちは、子どもたちには自己肯定感を高める指導をしてくれているんですが、先生たち自身はそうではなかったりする。それぞれに苦勞をしながらも、子どもたちに愛情をもって指導してくれているので…皆さんからの応援の声があれば、本当にありがたいです。

M：それこそが良い関係性ですよ。私たちも先生に感謝していること、実はたくさんあるんですよ（笑）なかなか言う機会もないですが、伝えられる環境があると良いですよ。

校：先生たちがありがたうって言われる。そういった数が増えれば、先生たちはもっともっと元気になるし、やりがいも増えるし、絶対それは子どもたちにも返っていきます。

M：ありがたいを先生に届けられるツール、方法があると良いですね。

校：いいですね！



校長先生からのお願い



M: これから学校（先生）と保護者がうまく付き合っていくために、宮部先生から何か私たちへのお願いとか、こうして欲しいことってありますか？

校: 学校ではいろいろなお子さんを預からせていただいております。だからこそ保護者の方も、感じることはたくさんあると思います。それはもうその通りだと思っています。私も保護者としての顔もあるので、皆さんのお気持ちは分かっているつもりです。ただ何か思うことがあったその時に、そのまま学校へご連絡いただく前に、お子さんたちへその出来事に対してどうしてそうなのか？という根拠は聞いてもらえると嬉しいなと感じます。

M: なるほど。例えば子どもが学校から泣いて帰ってきたりしたら、由々しきことが起きたのか！？と。親としては心配して、いの一番に連絡してしまいそうです。

校: そうです、お気持ちはとてもよく分かります。もちろんすぐに学校にご連絡いただくこと自体は問題ないです。ただ教員は根拠をもって指導しています。どうしてそうなったのか？ということは、まずお子さんからもしっかり話を聞いてからご連絡いただけると、お電話いただいた時点で担任とも話をすり合わせることができます。

M: 連絡を入れるときは、確認や、内容をすり合わせのために連絡するって感じですね。確かにその方が効率的な話し合いが出来て良さそうですね。

これからの宮上小を考える

M：今年度の宮上小学校の経営方針は① 安全・安心で信頼される学校 ②学び合い、知徳体を高め合う学校 ③生きがいを生む学校とされています。これを方針にされた背景は？

校：社会に出るにあたって、困らないようにしていきたいなと思っています。そのための安心安全であるし、学び合いであるし、生き甲斐ってところだと思います。これについては学運協とも話し合っ、今年度はこれで行こうとなりました。

M：今年度ということは、来年度は変わっていくのでしょうか？

校：大きな方向転換はしないと思いますが、年度毎に手を加えたり、重点化することを変えたりはすると思います。

M：生きがいを生む学校という点で、子どもたちの好きがもっと伸ばせる環境があると良いなと思います。例えば放課後の空き教室の活用など、もっとできそうなことがあるのではないのでしょうか。

校：そうですね。そのためにもっと学校と地域をつなげるコーディネーターが大切になってくるんです。学校と地域の情報整理をしていただく方が必要です。実は学運協の方でもとても大きなテーマになっています。

M：そうなんですね。どんな方が好ましかってありますか？

校：基本的には地域のことが分かっていて、学校のことが分かっていて、更にそれぞれの関係先と関係性が良い方だと嬉しいです。

M：確かに。この人をお願いしたら、すぐに地域と繋いでくれるという方がいればとても頼もしいですね。でもそれもボランティアですから…なかなか人選も大変ですね。

校：1人じゃとても抱えきれないから、グループや組織でやっていければ良いのですが、学校と地域が繋がれることが、これからの課題です。

M：そんな中で、例えば来年度以降みやかみ会が活動を縮小する、活動はボランティア主体に移行する…みたいになったら、学校運

営する上で問題ないですか？

校：もちろん問題ないです。とにかく保護者の皆さんには無理はしないでいただきたい…と思っています。

M：それで保護者の足が遠のくということがあってもいけないので、例えば保護者に学校の空き教室を「大人の自習室」みたいに開放するのとかはどうですか？毎日誰か来られたら、嫌ですか？（笑）

校：嫌じゃないですよ。むしろ大歓迎です。私自身はもっと地域の方たちにも、会議などで学校を使っていただきたいとも思っています。保護者の方にももっと学校を見に来てもらいたいんです。来ていただいて、授業や子どもたちを見ていただきたい。やっぱり実際に見ないと分からないことも多いじゃないですか。子どもの話だけ、先生の話だけじゃ分からないことも多いと思うので、見ていただくのが一番安心してもらえと思っています。もちろんいろいろな人が出入りすると、安全の問題もあるので、その辺りをどうするか丁寧に考えながら保護者の方にももっと学校へ来ていただける環境を作りたいと思っています。

M：お願いついでに…放課後や長期休暇に空き教室をうまく開放いただいて、子どもたちの居場所ができると嬉しいです。ただおしゃべりするだけ、一緒にお弁当を食べるだけの場所でも良いんです。夏休みは暑くて外で会えない＝遊べないということになってしまいます。子どもたちにも子ども同士で遊べる場所があると嬉しいです。

校：学校を活性化していかなければいけないことは確かなので、いろいろ考えていかなければいけないですね。

インタビューを終えて

顔は拝見していたけれど、面と向かってお話を聞くのは初めての宮部先生。

まだ赴任されたばかりで、どんなお人柄か分からずドキドキでした。最初こそお互い様子伺いの硬い雰囲気もありましたが、いろいろ質問させていただく中で先生の想いを聞いて、最後はとても打ち解けて本音を話し合えたと感じました。

みやかみ会のこれからの活動を考えたときに、みやかみ会が学校を手伝ってあげよう！と大手を振るのではなく、先生たちがちょっと手がまわらない…という小さなことをキャッチアップして、うまく保護者の皆さんとの橋渡しができるのが活動の意義になるのではないかと思います。私たちは保護者でもあり、地域の人でもあります。大きな旗振りは宮部先生や学運協がこれからも担ってくださるので、その方向性を私たち保護者もしっかり理解し、協力できる範囲でしていく。

また思うことがあれば建設的な意見を投げかけることで、より良い未来の宮上小学校を作ることができるのかなと思いました。

どの組織、メンバーも「子どもたちのため」という想いは間違いなく同じです。それぞれがほんの少しずつ協力することで、大きな力として子どもたちを支えることができると良いなと感じたインタビューでした。宮部先生、お忙しい中長いお時間いただきありがとうございました。



ご意見・お問い合わせ

mykm.renraku@gmail.com

